

町長のトピックス問う

大崎町を思う強い心を持って望む



小野 光夫 議員

長年、町政に取り組み、あれ、それなりの実績をあげられたが、そのリーダーシップいかんによって町の浮揚が左右される。町長としてどのように心がけているか。

決断と実行の結果を示す

町長

首長の職責は成果を求められている。これまで自らあらゆる機会を捉え、大崎のセールスを積極的に売り込んできた。これからも元気で活力ある大崎町づくりに努力していく。

新年度予算について

小野議員

今日の行政は、東日本大震災後、特に地域の絆が問われている。町民が主役、これがキーワードである。新総合計画を基本に、新年度予算が計上されているが、「町民が主役、みんなで進める結いのまちづくり」のため、どう反映されているか。

共生協働の社会づくりに支援

町長

まちづくりの基本は人づくり、地域づくりである。地域住民等が主体となった新しい挙動型社会の実現を目指す事を目的に、昨年11月に設置された大崎町共生協働推進協議会の補助金を計上し、また、

地域づくり活動支援補助事業費を計上し、更に、住民ボランティア運営型地域サロン事業に新たに取り組む。

グリーンツーリズムの広域的取り組みは

小野議員

新幹線の経済効果が463億円とのことである。そのほとんどが鹿児島市内を含む薩摩半島である。大隅地域一体でどのように協議され、広域的取り組みをするのか。

大隅農産漁村ツーリズムネットワークを設立

町長

近年地域支援を活用した体験型観光による、地域活性化を目的に、高齢者等の知恵や技を発揮する活動の場としてグリーンツーリズムの取り組みが注目

され、大隅地域でより多くの方々を受け入れるため、平成21年5月、大隅農産漁村ツーリズムネットワークが設立され、修学旅行等の教育旅行に限らず、農業体験受け入れ等、今後広域的に取り組む。

本町の取り組みについて

小野議員

高速道等のインフラの整備が未完成であり、多くの魅力あるものが生かされず陸の孤島である。スポーツ交流は若干あるが、本町の取り組みについて問う。

おおさきグリーンツーリズム推進協議会を設立

町長

鹿児島グリーンツーリズム協議会から本町協議会を紹介を受け、農業体験をするため民泊させる。一応、受け入れ体制の組織づくりを設置したところであ

る。24年度は体験ツアーを実施する予定である。

罪を犯した者に対し就労支援はできないか

小野議員

近年犯罪者が増加の傾向にあり、刑務所から仮釈放された80%が無職者である。協力雇用主就労支援事業という制度があり、自治体の入札に加点対象とし、再起しようとする人を雇用し、支援する制度を本町でも取り組みできないか。

県や隣接市と連携を密にし検討する

町長

保護観察対象者の再犯防止のための就労支援がいかに重要であるか認識している。この評価項目を導入しているのは九州で都市市がある。本町も24年度より工事成績や、ボランティア活動、災害支援活動の地域貢献活動を総合評価し、25年度の新たな等級格付けに向

けて取り組むこととしている。今後、県並びに隣接する市と連携を密にし検討する。

学校での「薬物乱用防止」の取り組みは

小野議員

薬物乱用とは、社会のルールからはずれた方法や目的で薬物を使うことであるが、全国で重大な事件も多発している。使用する年齢層も10代が増えているが、本町の取り組みについて問う。

薬物乱用防止教室を実施

教育長

薬物乱用を防止するには、薬物から魔の手が迫る前に、薬物の恐ろしさを正しく理解させることが肝要である。本町では6小学校、3中学校のすべての学校で実施しているが、更に今後とも啓発に努める。